

(図版一部加工)

30代の始め頃から、碑法帖の学習の一端を、書道雑誌に発表したり、特集のお手伝いをしたりしながら学ぶ事が多かった。98年に三井聰水閣旧蔵『宋拓集王聖教序』の名品で「内庫本」(ニ玄社の原色法帖選・続の一としてカラー精印されている)と称される、明の王鐸の題記のある劉鐵雲旧蔵本を特集したときに、この碑の宋拓本の特徴を丁寧に調べたことがある。簡単に整理するとA「清朝後期拓」、B「明時代拓」、C「宋時代拓」に区分する事が出来る。古典碑帖などに影印して使用されているのは、多くがCに属し、今から七、八百年前の宋時代に拓されたとされる。底本に使用されている宋拓のすべてが、古くに剪装(行ごとに切り、本の状態に表装)され折帖などの本に立てられて伝来している。Cの「宋拓本」、Bの「明拓本」、Aの「清朝後期拓(近拓とも称す)」のそれぞれの大きな特徴を整理し、図版②に示した。碑の全形拓本で各の相違ある中央部分のみを示した。西安碑林に現存する碑は、右の上部から斜め左にかけて大きな断裂痕が見られる。断裂痕にあたる十数字を見る事が出来ない。明時代の地震で碑が倒れ破損したと伝えられる。A、Bにはほぼ同じような断裂痕が拓本からも明確に見る事が出来るが、Aは断裂部分の所々により大きな破損がみられ、それほど多くないが、前号で示した「高陽県」部分などの明確な相違を確認できる。Cの宋拓本は、1972年に碑林博物館の「石台孝經碑」の内側から発見された未装の、剪装され

「落ち穂拾い記」(31)

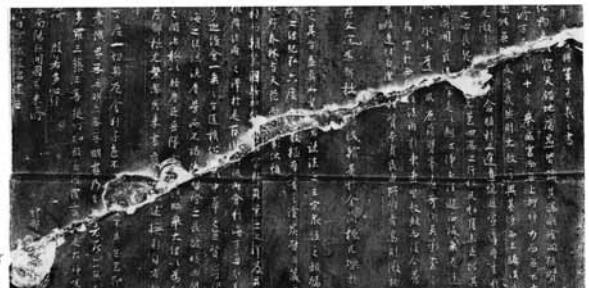
『集王聖教序碑・宋拓本』(中)

A 近拓本

B 明拓本

C 宋拓本

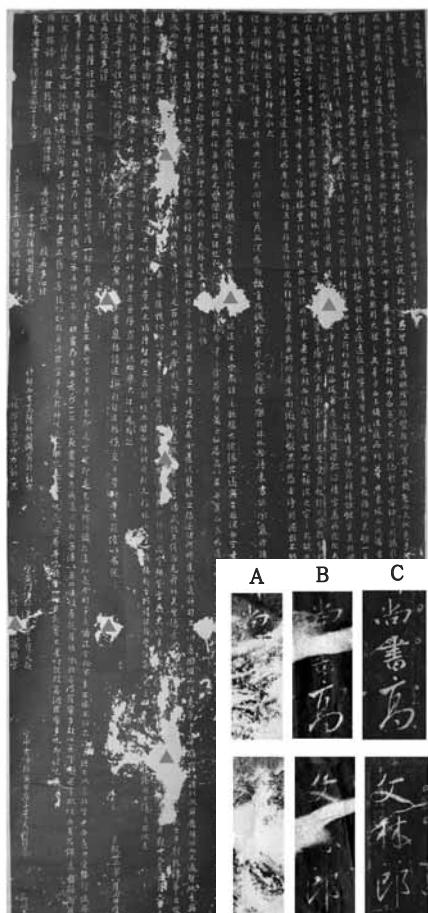
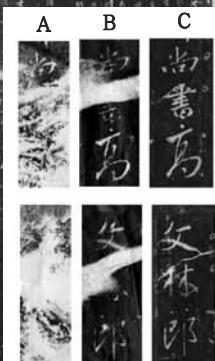
(図版②)「宋拓・明拓・近拓」の断裂痕の比較



(図版③)「宋拓整体・集王聖教序」

「尚書」

「文林」

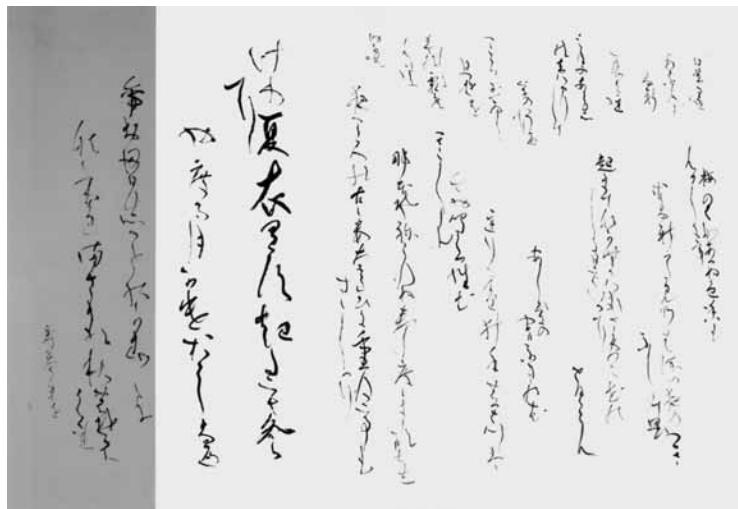


(西安・碑林博物館蔵)

ていいない宋拓の整体(碑形そのままの拓本)である。宋拓の集王聖教序碑の整体は、これが唯一一件のみで、天下の孤本である。宋拓は、断裂ではなく、碑の左側から細いひび割れの様な細い線痕(この線痕に従い明時代には碑が二つに断裂する)を七、八行分ほどまで微かにみることが出来る。まさに宋拓本は、碑が断裂していない状態を示している(図版③)。(▲印を付した大きな白い部分は、拓紙が破損して失われた部分である。全体で數カ所見られる)。特集の三井聰水閣旧蔵の内庫本も、各種の宋拓と称される影印碑法帖の多くの名帖も同じようなひび割れを示しているが、文字は完全に見る事が出来る。前に紹介した「皇甫誕碑」の宋拓本のひび割れと同じであり、西安碑林の他の名碑の宋拓に共通する特徴である。この特集を終え、しばらくして北京に向き懇意にしていた書店で、次回開催される小さなオークションの、写真的國版のない簡単な売り立て目録を見ていたとき、旧拓と題された集王聖教序碑を見つけ、原帖を下見した。巻末の「文林郎」その横の「尚書高陽県」部分に大きな断裂痕が無く、「文林」「尚書」の文字はほぼ完全であり、細いひび割れがはつきりと見られた(図版①)。一目見て宋拓と確信した。後で北京の友人に、詳細な事は告げず、どうしても欲しいとだけ伝え、購入を依頼した。帰国してから電話があり、購入できたと。その一週間後に郵便で届いた。

伊藤滋(書齋名・木鶏室)

書道芸術院 令和の群像 (2022)



第71回書道芸術院展「梅の花」 松村くに子 書

「今、思つ」と

私は、下谷洋子先生にお世話になって30年ほどになります。最初の師は、下谷東雲先生(洋子先生のお父様)でした。

図らずも40歳過ぎて初めて外で働くことになり、仕事と家事に追われ筆を持つ時間は限られていきました。その状況の中、洋子先生より「良いものに触れなさい」との教えをうけた時に思い出したのは、東雲先生の「目は手よりも上」とのお言葉でした。それから書道雑誌、古筆の法帖などを持ち歩き、仕事の休憩時などを見て学びました。そのことで二人の師の教えが少し身についたのではないかと思っています。

第71回書道芸術院展において、大作品の栄をいただきましたが、当初はどうしたらよいか不安でいっぱいでした。しかし今となれば大変貴重な経験であったと振り返っています。題材は新古今和歌集より、春夏秋冬の歌を選び、与えられた壁面に合わせて8×12尺横作品を出品することにしました。字粒の太細、ボイ

ントとなる山場などを意識し、試行錯誤を繰り返しました。

日々、かなは自然の流れが重要と思っています。それを表現する方法の一つとして、墨量の扱い方があると考えます。自然に墨が枯れて行くよう墨継ぎの箇所ごとに含墨の量を調整しましたが、難しい作業でした。仕上がりの良し悪しは別として、さまざまに考え、いろいろなことを感じ取る機会を与えてくれた、かけがえのない大作となりました。展覧会出品に向けての創作に、最近では楽しさを感じられるようになりました。これも師のご指導のおかげです。

昨年の下谷先生個展の作品集を時々見ております。目の勉強です。先生が私たちに創作能力を高めるためのご指導をしてくださるよう、自分の弟子にもしっかりと教えていかなくてはと感じています。書道芸術院の諸先生、尊敬する師、良き書友、大事な弟子たちに囲まれた、この上ないすばらしい環境にいることに感謝しながらこの道を進んで行きたいと思います。



松村くに子

書のひろば

理事長 辻元大雲

新体制発足を慶賀し、院発展のため
ご尽力を切にお願いしたい。
本欄「書のひろば」は次号から下谷
洋子が担当する。ご支援を。

理事を退任された4名は左記の役職
に選任された。

令和4年度公益財団法人評議員会 理事改選 新体制による理事会開催 下谷洋子新理事長体制発足

6月11日午後定例評議員会が文具共

和会館にて開催され、令和3年度事業
報告及び会計決算が原案通り承認可決
されたのに引き続き、任期満了による

財団理事の改選が行われた。

今回退任する理事は左記の4名。
辻元洋一（大雲）、板垣浩（洞仙）、
浜田正雄（堂光）
以上定年による退任。

尾形崇（澄神）
上記4名のほかは全て再任となつた。
新たに理事に選任された方2名。
半田美保（藤扇）、山口貫司（仙草）
監事1名の補充選任
田村誠敏（鄭雲）
評議員2名補充選任
小野由紀、広瀬裕之（舟雲）
以上により理事は17名体制となり、
現体制より1名減となつた。補充選任
者はそれぞれ残任期間の任期となる。
さらに6月25日開催の新理事會にて
財團の新体制が理事互選により決定し
発足した。

・理事長 下谷洋子
・常務理事 小竹康夫（石雲）、
後藤繁雄（大峰）
階の主展示会場に新たに1階の多目的
ホールが整備され、1階に歴代会長、
術館から会場を移して開催された。2
階の主展示会場に新たに1階の多目的
ホールが整備され、1階に歴代会長、
・理事長 下谷洋子
・常務理事 小竹康夫（石雲）、
後藤繁雄（大峰）

・財団顧問 辻元大雲
・財団参事 板垣洞仙、尾形澄神、浜田堂光
片岡充（豪峰）（事務局長就任に伴
う選任）

第76回書道芸術院展運営委員会、
実行委員会開催

6月25日新理事会に引き続き、第76 回書道芸術院展運営委員会（理事・監 事で組織）が開催され、76回展運営大 綱の決定、特別賞選考委員、当番審査 員、事務局委員など主要人事が決定し た。引き続き76回書道芸術院展、74回 全国学生書道展各部部長による実行委 員会が開催され、各部副部長、委員な ど組織および実行内容などが検討され た。（詳細は後日発表）。

創立75周年記念書道芸術院役員 作品全国巡回九州展 福岡行橋にて開催。

6月16日から19日まで、福岡県行橋
市コスメイト行橋を会場に表記巡回展
及び九州支局展が開催された。
コスメイト行橋は前回の大分県立美

術館から会場を移して開催された。2
階の主展示会場に新たに1階の多目的
ホールが整備され、1階に歴代会長、
術館から会場を移して開催された。2
階の主展示会場に新たに1階の多目的
ホールが整備され、1階に歴代会長、
・理事長 下谷洋子
・常務理事 小竹康夫（石雲）、
後藤繁雄（大峰）

財団役員による全国巡回作品が展示さ
れ、2階展示場ではガラスケース内に
香川峰雲遺作が石印材を含め立派に展
示され、観客の注目を浴びていた。

会期最終日19日午前10時より、会場
内のエントランスホールにて小竹石雲
常務理事と巡回展及び支局展について
解説会を行った。院の75年の歴史を振
り返り、将来に向けての展望などをお
話した。その後一人による臨書と創
作の席上揮毫を行った。会場に詰め掛
けた60名余の参觀者の希望による揮毫
もを行い、大きな反響を呼んだ。

令和3年度事業報告、決算の承認が行
われた。理事長が所用で欠席のため仲
川恭司副理事長が議長を代行、事務局
長辻元大雲が議事説明を行った。

総会に引き続き講演会が2年ぶりに
開催された。

講師 神奈川県立保健福祉大学リハ
ビリテーション学科長

笹田哲先生

演題 「不器用さのある子どもの書
字動作の特徴と、書く力を伸
ばす身体の使い方について」

保健福祉の観点から書字活動にいろ
いろ問題を抱える生徒児童への細かな
配慮と指導の在り方を、具体的な映像
などを交え、分かりやすくお話しした
だいた。講演内容は連盟会報（年末頃
発行の号）に報告される予定。

第50回記念日本の書展東京展開幕 特別展示も開催 祝賀会も



エントランスホールでの席上揮毫

品個々につきアドバイスも行い、閉幕
4時ギリギリまで盛会であった。高田
幽玄支局長はじめ役員各位のご努力に
深く感謝したい。

全日本書道連盟総会・講演会開催

6月2日午後、公益社団法人全日本
書道連盟総会が上野精養軒にて開催、
書道連盟総会が上野精養軒にて開催、

太郎氏に贈呈された「受勲記念帖」も
公開された。600余名が集った祝賀会は
ホテルオークラにて盛会であった。

◆ 公益財団新体制発足

新体制の出発にエールを

大元辯



理事長就任あいさつ



香川峰雲先生　種谷扇舟先生など多くの先生方近くは財団法人認可へのご努力をされた恩地春洋先生の厳しくも温かいご指導ご教導をいただきながら、院中枢の役員をこれまで担当させていただきました。成52年7月に内閣府から公益財団法人認可となり、また新たに一步を進めて参りました。公益財団認可を受けて以来早や10年を経過しようとしています。昨年創立75周年を迎え、さらに向上、進化を期待される書道芸術院であります。これまで多くの方々に支えられ何とか大役を務めさせていただきました。自身の未熟さ、能力の無さをいつも感じつつ、反省の日々でもありました。院幹部の役員はじめ会員の皆様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

新体制を率いる下谷洋子新理事長は皆さんが承知の通り、院はもとより毎日書道展はじめ書壇での名声は高く、素晴らしい指導力の持ち主であります。朝日二十一人展メンバーを務め、毎日芸術賞に輝く実力は素晴らしい、我が書道芸術院の誇りでもあります。小竹石雲・後藤大峰常務理事とのタッグは強固であり、搖るぎがありません。

公益財団法人書道芸術院が今後ますます発展しますように、会員の皆様の絶大なるご支援、ご協力を願い申し上げます。

このたび、公益財團法人書道芸術院理事長という大役を、辻元大雲先生からお引き受けすることとなりました。先般、第75回記念展が無事終了しましたが、本院は、長い歴史を刻み、歴代会長他、たくさんの先達によって築き上げられ、盤石に発展してまいりました。とりわけ、12年に亘り、理事長といたが、本院のみならず各方面への運営・業務的も確になされていました。いらした辻元先生の後継を務めることに関して、未だ気持ちの準備も整っておりませんが、与えられた重責を果たすべく、真摯に力を注ぎたく存じます。

近年、思いがけなく世相の変容が著しく、総合団体の本院にとりましても難しい状況と認識しています。「書は芸術であります。」から発せられた院創立の趣意書を原点に、この困難な時代を切り抜け少しでも進展させていくには、是非とも会員の皆様の熱意のある大きなお力添えが必要です。これまで以上のご支援、ご協力を賜りたくお願い申し上げて就任のご挨拶とさせていただきます。

評 略

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

○ ○ ○ ○
大太生田高山半名津千種坂小小北川稻石飯後小下
平田石田村田口田越田葉谷本林浜村島垣井沼藤竹谷
邑蓮仙翠鄭幽仙藤蒼海蒼萬素琴大白舟小明恵大石洋
峰紅岳龍雲玄草扇竹仙玄城雪水明琉錦燕子鳳峰雲子
浜辺香大
谷元川野
芳大倫祥
仙雲子雲

参

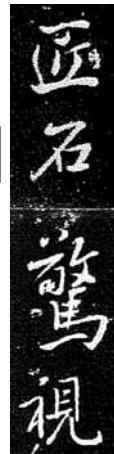
片浜畠西田佐片加板飯尾山三三前広平西知武佐佐崎小工木小岡田中岡守藤岡瀬垣田形崎森浦田瀬川川野山藤藤井林藤村野豪堂弄雨光香豪澄洞春澄掃慧鄭龍舟峰翠洛櫻菜無恵古永東由峰光石瑤昭山峰春仙香神雪香街雲雲子嵐水子扇極風徑翠舟紀

岡田中岡守藤岡瀬垣田形崎森浦田瀬川川野山藤藤井林藤村野
豪堂弄雨光香豪澄洞春澄掃慧鄭龍舟峰翠洛櫻菜無惠古永東由
峰光石瑤昭山峰春仙香神雪香街雲雲子嵐水子扇極風徑翠舟紀

現代詩文書基礎基本講座(26) 小竹石雲

【臨書から現代詩文書への展開】

【枯樹賦】褚遂良 唐(630年)



①写実的臨書



②発展的臨書



- 筆は①は羊毛中鋒。②は剛毛長鋒を使用。
- 味わいのある線を渴筆に求めてみた。
- 発展領域が広いので、私の好みた。
- な古典の一つである。

北周の庾信の名文とされて
いる。枯樹賦は褚遂良35歳の
書と伝えられている。

- ・静かな中に厳しさを秘めた響きのある線。
- ・起伏に満ちたりズムをもつて運筆された線、そこから
生まれた形は変化に富んでいる。
- ・そのため豊かな情趣が感じられる。

前衛書基礎基本講座(2)

千葉蒼玄

○芸術、文化、前衛ということ

表現が生まってきたのではないだ
ろうか。

“書は芸術か文化か”という論争
があったように記憶している。現
在は文化という方向に落ち着いて
いるようにも思えるが、さて、“芸
術”、“文化”とはどういう意味な
のだろうか。辞書を引いてみると
芸術・特定の材料・様式などによっ
て美を追求・表現しようと
する人間の活動。および、
その所産。

文化：人間の生活様式の全体。人
類がみずから手で築き上
げてきた有形・無形の成果

の総体。

とあり、芸術は製作行為そのもの
に重心が置かれ、文化はその生
まれた作品（技術）を指すよう
ある。

それでは前衛はどうだろう

前衛：芸術活動で既成の概念や形
式にとらわれず、先駆的・
実験的な表現を試みること。

(軍隊の前方にあり、偵察・
警戒などの任にあたる部隊)

前衛以外の分野の人たちは前衛
とは関係ないと想いがちだが、漢
字・かなの作品（表現）も“先駆
的・実験的な表現”により新しい

隸書はスマートな斬新な前衛的書
体であり、平安朝のかなから見れ
ば現在の大字のかなはモダンアーティ
ストにも匹敵する作品である。この

ように、時代的欲求により生まれ
たものがあれば、美的要素を含ん
で変化したものもある、その全て
が前衛書ではないだろうか。

掲載の作品は中島邑水先生の作
品である。篆書をモチーフとして
いるが、作品集の解説には、アテ
ネの神殿の丘に立ち、高く聳える
連山を目の当たりにしたときの印
象「古代のひとつが神につかえ
まつる厳凜な姿」とある。私は神
殿の柱（エンタシス）を感じる。



「丘」

中島邑水書

令和4年度 新審査会員作品

井上 雲開（現）・鈴木 楽洋（前）・廣瀬 幸枝（前）・池田 等紗（漢）

「立原道造の詩」



井上雲開
(千葉)



廣瀬幸枝
(群馬)

「歓」

この度は審査会員にご推挙
いただきありがとうございます。

この作品は、前衛書との出
会いの喜びと、ご指導くださ
る真下京子先生や書の仲間へ
の感謝を表現しました。
これからも、さまざまな芸
術に触れ、感性を磨き、線を
鍛え、独自の書表現を求めて
精進していきたいと思います。



池田等紗
(大阪)

「桜」

この度は審査会員にご推挙

いただきありがとうございます。
ご指導いただいた小林琴
水先生、横井正江先生、春洋
会の諸先生方に心より感謝申
し上げます。「臨書を大切に」
という先生の言葉を胸にこれ
からも努力してまいります。
私は今年の桜は一段と美し
く忘れられないものとなりま
した。

(等紗)

(雲開)

「立原道造の詩」



鈴木楽洋
(岩手)



(楽洋)

「追」



井上雲開
(千葉)

この度は、審査会員にお引
き立て下さり、誠にありがとうございました。
うござります。役職に恥じない
い作品を創っていきたく思
いますが、未熟ゆえ常に「熱情」
ある向上心を持ち、「自分をき
たえ」ていく決意を筆遣いに
込め、作としました。師の廣
瀬舟雲先生をはじめ、書道芸
術院の諸先生方、これからも
ご指導ご鞭撻のほど、どうか
よろしくお願い申し上げます。

(雲開)

この度は審査会員にご推挙
いただき誠にありがとうございます。
太田蓮紅先生はじめ
諸先生方のご指導と書友の励
ましのお陰と心より感謝申し
上げます。まだ惑うことばかり
ですが、「追」という字に
願いをこめ、先生のご指導の
もと書友同士切磋琢磨し精進
して参りたいと思います。

第73回 每日書道展

主催：毎日書道会・毎日新聞社

●東京展

○国立新美術館

※毎週火曜・水曜は午後1時開場

前期(Ⅰ) 7月13日(水)～7月18日(月)

前期(Ⅱ) 7月20日(水)～7月25日(月)

後期(Ⅰ) 7月27日(水)～8月1日(月)

後期(Ⅱ) 8月3日(水)～8月7日(日)

○東京都美術館＝7月18日(月)～7月24日(日)

※7月19日(火)は休館

●関西展

第一会場 8月17日(水)～8月21日(日)

京都市京セラ美術館

第二会場 8月17日(水)～8月21日(日)

みやこめっせ第2展示場

第三会場 8月17日(水)～8月21日(日)

日図デザイン博物館

●北陸展

8月21日(日)～8月25日(木)

富山県民会館

●中国展

8月23日(火)～8月28日(日)

広島県立美術館

※7月24日(日)の表彰式は規模を縮小して行います

終了後の祝賀会は中止となりました

●四国展

8月24日(水)～8月28日(日)

愛媛県美術館

●北海道展

9月7日(水)～9月11日(日)

札幌市民ギャラリー

役員展

9月7日(水)～9月11日(日)

大丸藤井セントラル スカイホール

●東北仙台展

9月19日(月)～9月23日(金)

アエル 松栄ホール

●東北山形展

10月19日(水)～10月23日(日)

山形美術館

●九州展

11月1日(火)～11月6日(日)

大分県立美術館

●東海展

11月8日(火)～11月13日(日)

愛知県美術館ギャラリー

書道芸術院「毎日書道展祝賀懇親会」は中止

前号でお知らせしましたが、例年行っております書道芸術院「毎日書道展祝賀懇親会」は、コロナ感染防止の観点から中止させていただきます。

(書道芸術院事務局)

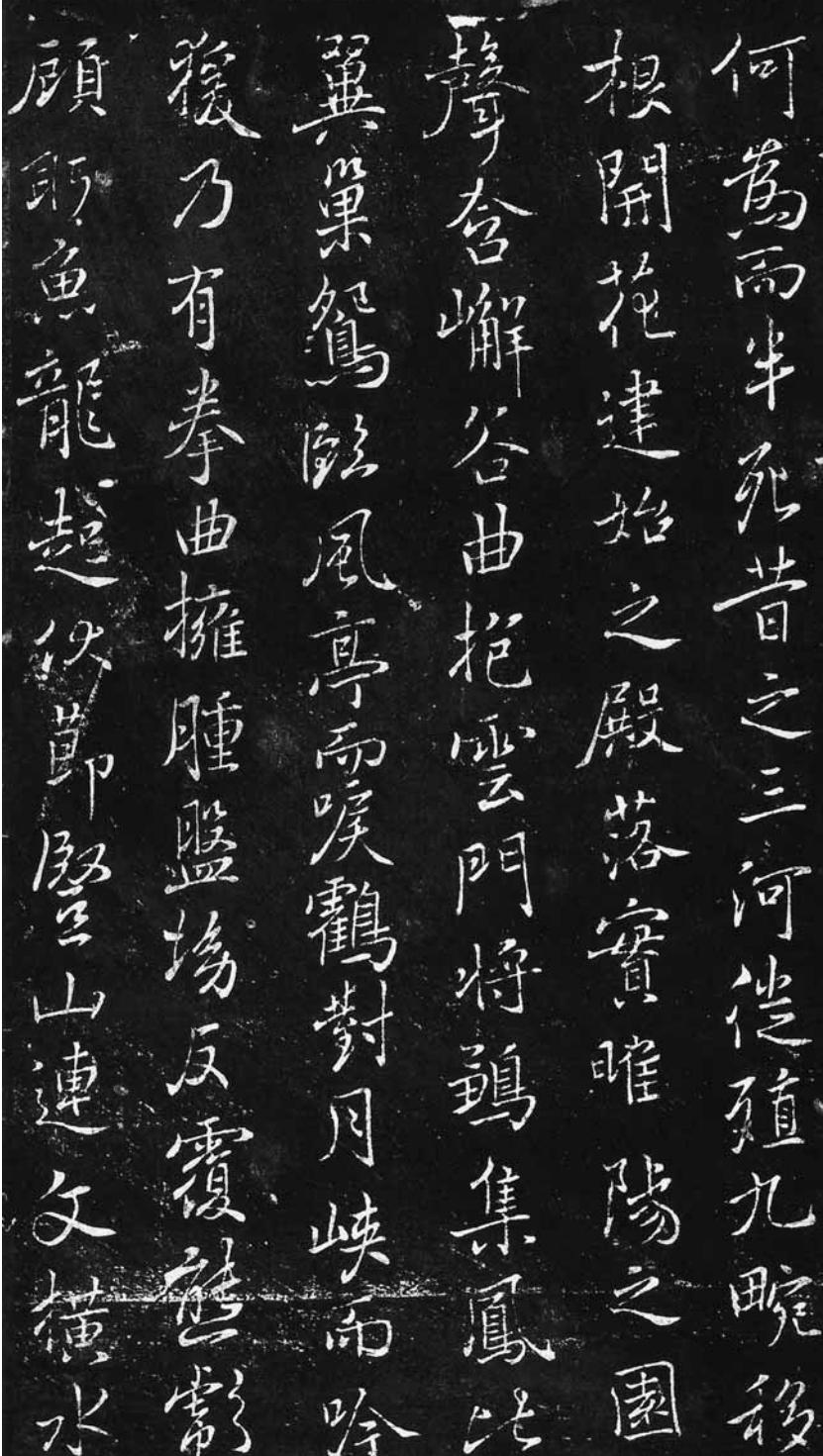
枯樹賦

(唐 630年) ①
褚遂良

解説)「枯樹賦」は北周の有名な詩人庾信(513~581)が作った漢詩の賦(漢詩の一體、漢以後さんになつた)である。内容は東晋の殷仲文が庭の樹木の衰枯をみて人生の無情を嘆く様子を表現し、庾信みずから異郷の地にある悲哀を盛り込んでいる。この枯樹賦の末尾には「貞觀四年(630)十月八日。燕公の為に書す」とあるのみで褚遂良の署名はない。しかし、唐

代の徐浩の『古述記』に「遂良の枯樹賦」との記述や北宋の蘇頌『魏公題跋』により、古來褚遂良(596~658)の書とされている。褚遂良35歳のときの書で、現存する褚書中、書写年代のもつとも早い優れた行書である。線に粘りがあり、抑揚緩急をつけた運筆の妙がみごとに表現されている。本文全37行、行12~14字(大きさ約2寸)、全40字からなる。

(編集部)



(掲載図版・75%に縮小)

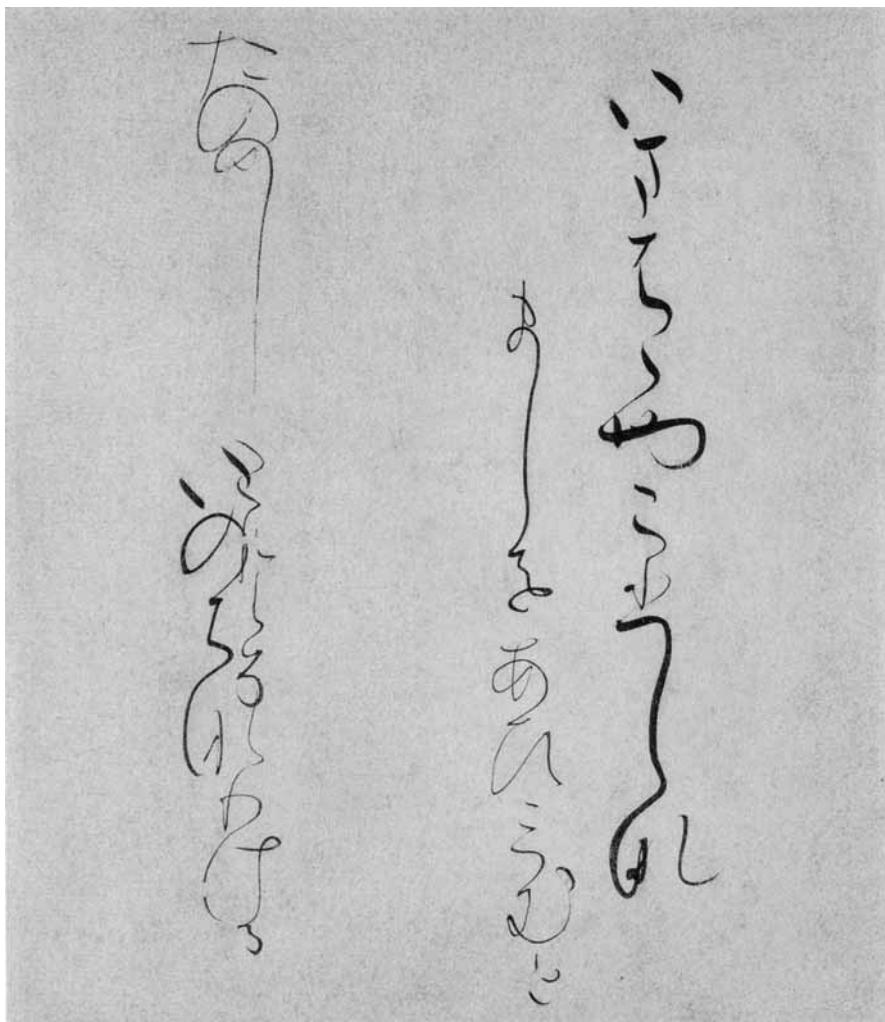
※落款を必ず入れる。署名、もしくは○○臨(押印のみも可)

漢字研究部臨書課題 (半紙普通判・縦使用) 上記掲載部分より何文字臨書してもよい。

特別研究部臨書課題 (A. 大作の部 每日展審査会員・会員サイズ以内、2×6尺・全紙も可) (B. 小品の部 半切以上半切以内、全紙以内も可(A・B縦横自由)) 当該古典の上記掲載部分以外も可。

何爲而半死。昔之三河徒殖。九畹移根。開花建始之殿。落實睢陽之園。聲含嶧谷。曲抱雲門。將鵠集鳳。比翼巢鸞。臨風亭而唳鶴。對月峽而吟猿。乃有拳曲擁腫盤蕩。反覆盤繆。顧盼魚龍。起伏節歛。三山連文。橫水。

升色紙（云藤原行成筆）①



(東京国立博物館蔵)

※古筆は原寸（以上も可）で臨書し
ましよう。

※掲載図版は原寸

かな研究部臨書課題
特別研究部臨書課題

(編集部)

※落款を必ず入れる。署名、もしくは○○臨（押印のみも可）

(半紙普通判(料紙可)を縦長に使用)
別紙を裁断して貼付も可。半纏紙は半紙サイズに切って使用のこと。
上記古筆の掲載部分を書く。

A. 大作の部=毎日展審査会員・会員サイズ以内、 2×6 尺・全紙も可
B. 小品の部=半切以上半切以内、全紙以内も可(A・B縦横自由)
<いずれも上記の掲載部分以外も可>

よみ
いまはは(ゝ)やこひしな
ましをあひみむと
たのめしことぞ
いのちなりける

解説

升色紙は清少納言の曾祖父で、歌人
の清原深養父(908?~959?)の家集
(個人の歌集)を書き写したものである。現在
もとは糸綴じの綴葉装冊子であったが
分割され、その形が升のような方形を
していることからこの名がある。現在
は模写本も含めて29葉30首が確認され
ているが、料紙は鳥の子(雁皮紙)の
素紙や淡藍の染紙で、それに雲母砂子
を撒いたものもある。当初は適宜詞
や題を交えつつ、1ページに1首半や
2首書いたところもあったようだが、
後に1枚1首に改められたものが多い。
上掲の「いまははや…」も、ふくよ
かな字形で線に太細の変化をつけ、行
と行を重ねて書くなど、美しく巧妙な
構成だが、後世、改変の手が加えられ
たものである。

辻元大雲

直幹孤根
(幹を直し根を孤とす)

まっすぐな幹と、ただ一本の根、
実直なことの意です。

今回は簡略な草書表現としまし
た。草書は字形の変化が多く、よ

く理解していないと誤字や不明瞭
な表現となる場合が多いです。字

書でよく調べて正確な字形を会得
したいのです。ただ、字書にあ

るからといってそのまま真似ては
消化不良になります。日頃からの

古典臨書など基礎力がものを言い
ます。

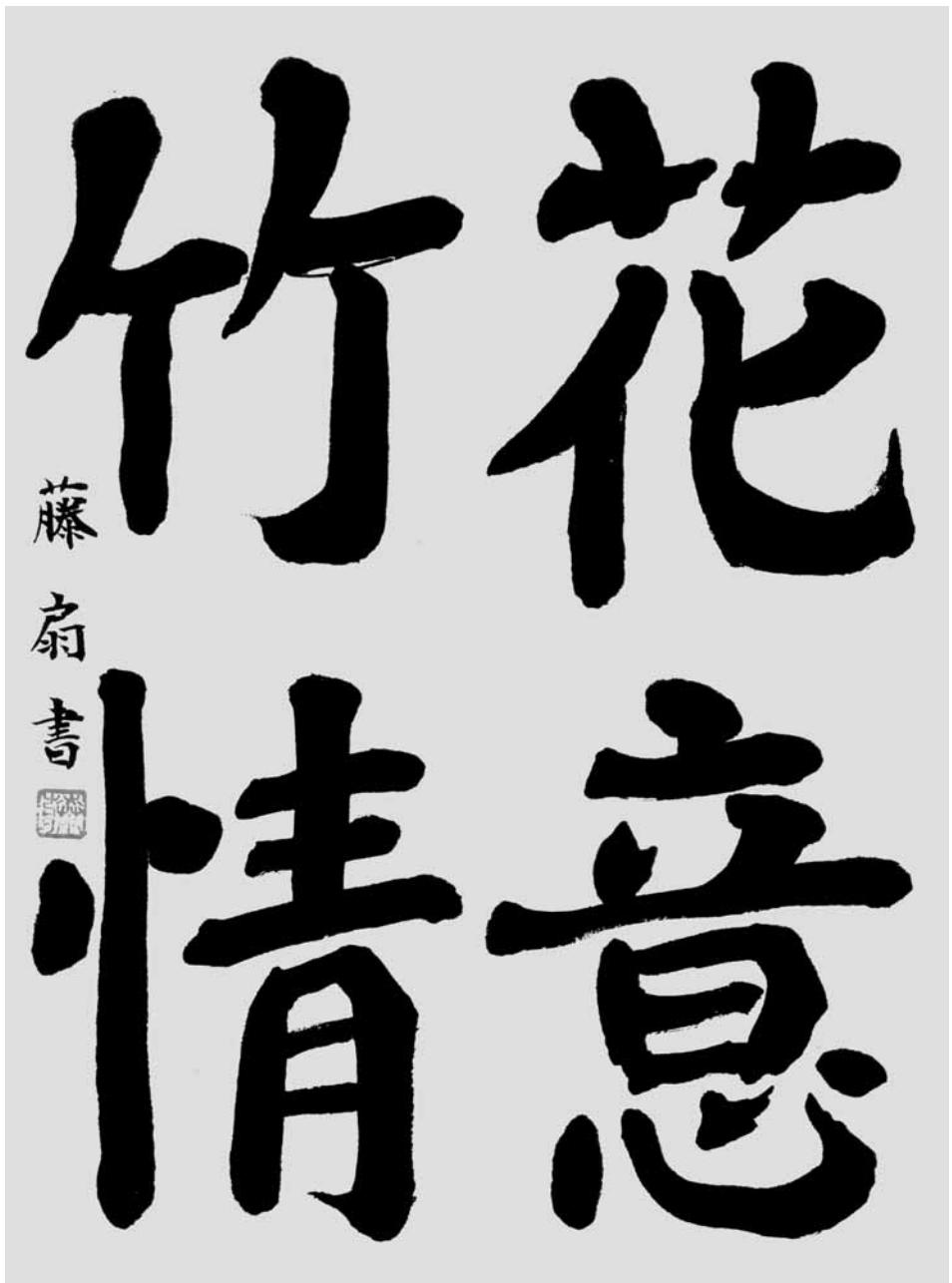
直幹孤根 よみ(幹を直し根を孤とす)

書体=自由



習い方解説 四

花意竹情
(花意竹情)
「現代書作必携」



書体＝楷書



藤扇

※倣書とは、古典などから作風を
拝借し、その雰囲気で書く。

※羊毛筆を使用

〈参考作品〉

鄭文公碑を筆頭とする鄭道昭の円筆書法で書作しました。円筆とは、筆管を紙面に垂直にあて穂先を点画の中に穂すようにして運筆する筆使いです。丸みを帯び、ゆったりと大らかな文字に仕上がります。円筆による線が特徴的な隸書体のような要素が含まれています。自然石や岩肌に文字を刻した「磨崖碑」は、見逃すことができません。雄大さに接するには、現地にいって眼でみて、触ることでしょう。

かな規定 初段以上【八月十五日締めきり】用紙 半紙普通判(料紙可)

平川峰子選書

習い方解説 (一)

平川峰子

あしひきの山川の瀬の響るなへに
くなるにつれて上流の巻向山に雨雲
が立ち渡つて「行くのが見える」の意。
柿本人麿「万葉集」

「穴師川(巻向川)の瀬の音が激しくなるにつれて上流の巻向山に雨雲が立ち渡つて「行くのが見える」の意。柿本人麿(麻呂)は、飛鳥時代の代表的な歌人。後世、山部赤人と共に歌聖と呼ばれる。

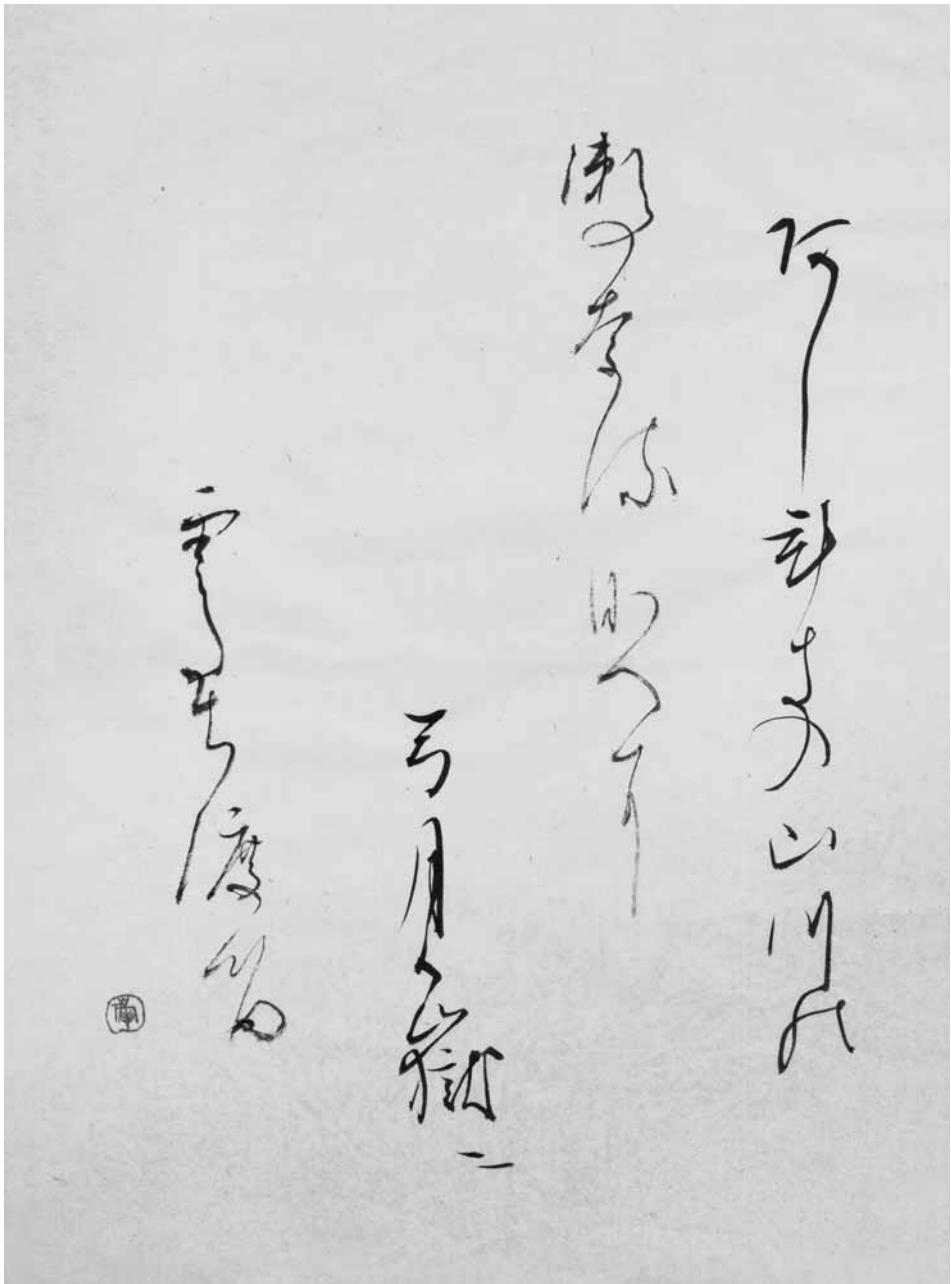
墨継ぎは、弓でしましたが墨量が続くようであれば、雲でもよいでしょう。4行の散らし書きですが文字の大さ、行の流れと行間の余白に変化をつけてください。特に4行目は雅印の位置を考慮して少しづつ右に傾きをつけました。

かなは、各行の書き始めと書き終わりの位置を変えるだけでも、美しい散らし書きになります。

*料紙は半紙版(33.0×24.5cm)を使
用しましょう。

よみ方 あ(阿)しひ(飛)き(支)の山川の(能)瀬の響(奈)る(流)な(那)へに(耳)
弓月が(可)嶽に(一)雲た(多)ち渡る(留)

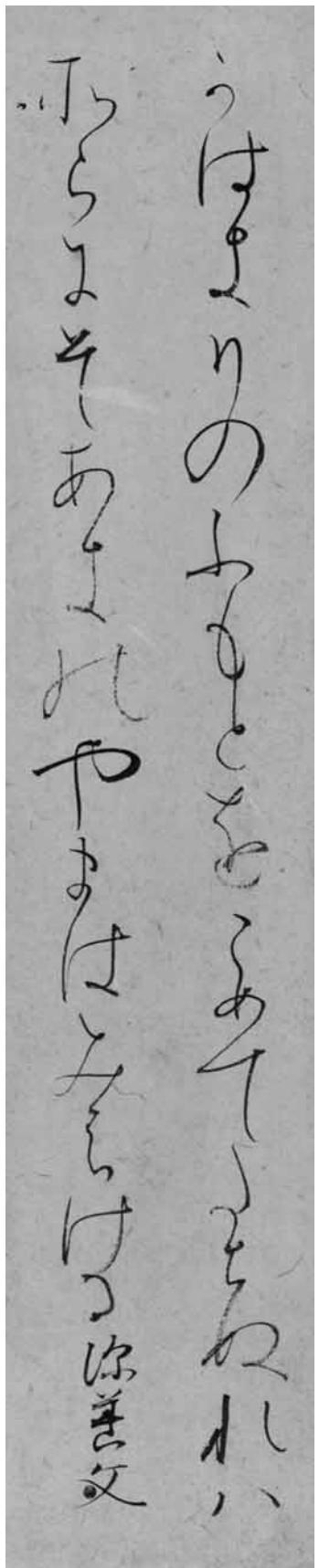
創作



かな規定 秀級以下【八月十五日締めきり】用紙 半紙タテ $\frac{1}{2}$ (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)

掲載写真的和歌を臨書する。または部分(2字以上の連綿または単体を含む)を臨書する。

粘葉本和漢朗詠集
(掲載写真拡大120%)



よみ方 か(司)はぎ(支)りのふもとをこめてた(多)ちぬれば(八)

そ(所)らに(尔)ぞあき(支)の(能)やまはみえける深養父

習い方解説 (一)

小島孝予

かな条幅規定【八月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切(料紙可)

小島孝予選書



おのづから涼しくもあるか夏衣

日も夕暮の雨のな」りに

(藤原清輔「新古今和歌集」)

和歌の2行書です。2行の響き合いで考慮して「夏衣」を2行目上部に置きました。行の文字数は1行目が13文字になるので天地に余白をとり、2行目は15文字の多さを感じさせぬよう、漢字かなバランスや文字の大小の組合せによって、字間・行間の余白が動くことを心がけました。色々なパターンで表現してみましょう。

*タテ形式に限る

よみ方 お(於)のづ(徒)か(可)ら涼(すゝ)し(志)くも(茂)あ(阿)るか(加)夏衣日も
夕暮ゆふ久れ)の雨の(能)な(奈)ご(古)りに(一)

創作

習い方解説 四

種谷萬城



不識廬山眞面目 只緣身在此山中
(蘇軾「題西林壁」)
(廬山の眞面目を識らざるは、只だ身の此の山中に在るに縁る。)

書体=自由

漢字条幅規定 秀級以下【八月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

習い方解説 四
千葉蒼玄選書

「壮大な幽石を包む白雲のよう
に、おおらかな心。」の意。

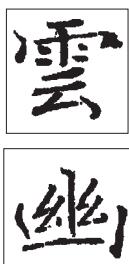
千葉蒼玄



白雲抱幽石
(白雲幽石を抱く)
(寒山詩)

書体=自由

褚遂良「雁塔聖教序」



虞世南・歐陽詢が楷書の基礎を作ったとすれば、褚遂良はそれに音楽的リズムを加え芸術的に一つ次元を高めたように思う。線は細身ではあるが、鋼のような弾力の強さがある。比田井天来は雁塔聖教序を研究して、俯仰法を発見したといわれている。

江西省の廬山は、大小様々な山並みから成る景勝地です。「廬山の中に入ると、廬山の眞面目(眞の姿)が解らない。」と詠んだ哲學的な内容の蘇東坡詩「題西林壁」の後半部です。連綿を交えた行草で書きました。明末清初の、王鑑、傅山は、連綿行草書で魅力的な名品を多く残しました。条幅作品創作の良き参考になります。

*タテ形式に限る

北村白琉

のびのびとした書を書くこと
にして下さい。生き生きとした
書を書いて下さい。綱にかかった
書を書いて下さい。綱にかかった
若鮎のやうにびちびちとして
匂深い書を書いて下さい。

大澤雅休の書話より 白琉書

書道芸術院の設立発起人のひとりである
大澤雅休は、戦後の混沌の時代に現れた前
衛書道の先駆者である。私の師山本畫水は、
雅休を慕い富山から、雅休の住む高崎へと
居を移し私淑した。書道芸術院の前衛書部
門の作家は、皆雅休の流れを汲み、その精
神を引き継いでいる。

課題は雅休が書への思いをつづった文の
一部だが、ペン字でもこのように心掛けて
書けたなら、先達の書をさらに身近に感じ
られると思う。

のびのびとした書を書くこと
にして下さい。生き生きとした
書を書いて下さい。綱にかかった
若鮎のやうにびちびちとして
匂深い書を書いて下さい。

大澤雅休の書話より

「注意!!

用紙の大きさにばらつきが見られます。
用紙サイズ(14.8×10cm)を守って下さい。

△用紙 ハガキ大(14.8×10cm)の白紙を使用
△黒インクのペンを使用(ボールペン・フェルトペン可)

文月 盛夏 千葉県 東京都

連日厳しい暑さが続いておりますが
連日厳しい暑さが続っておりますが

大平邑峰

(楷書) 文月 盛夏 千葉県 東京都
(楷書) 連日厳しい暑さが続いておりますが

(行書) 文月 盛夏 千葉県 東京都
(行書) 連日厳しい暑さが続いておりますが

基本用語 「文月」旧暦7月の別称。「盛夏」夏のいちばん暑いころ。

- ◇小筆・筆ペン・サインペンなどを使用 署名は各自の姓号を (掲載手本90%に縮小)
◇用紙は普通版半紙横1/2(24.5×16.5cm) B5版コピー用紙(26.0×18.1cm)も可
◇所定の出品券を作品の右下に貼る <審査会員を含む誰でも出品可>

今月の

ホープ作品
各部総評 No.733

かな部 師範 岡田 麻美
参考手本への洞察力の深さから
独自のかなの世界へ展開させた表
現力は美事。滅多にない美意識。
◎かな部總評 概ね素直な學習か
ら生まれた明るい作多く快い。字
粒と墨量変化はさらに研究し、美
しく個性的な紙面を望む。(明子評)
(洋子評)

かな部 師範 岡田 麻美
参考手本への洞察力の深さから
独自のかなの世界へ展開させた表
現力は美事。滅多にない美意識。
◎かな部總評 概ね素直な學習か
ら生まれた明るい作多く快い。字
粒と墨量変化はさらに研究し、美
しく個性的な紙面を望む。(明子評)
(洋子評)



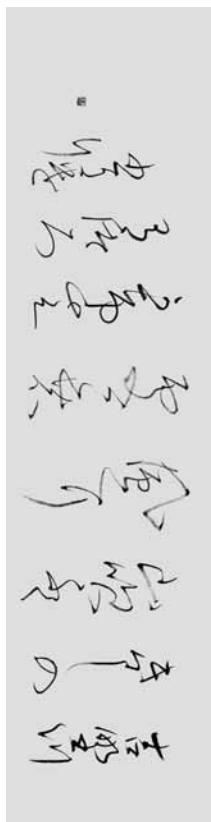
漢字条幅部 師範 尾形 紅霞
暢達した筆致がのびやかに展開
し、リズムある作。太細、開閉の変
化が加わればさらに大きく展開か。



◎漢字条幅部總評 書体自由の条
幅部門は多様な取り組みが出来る。
用具、用紙などを色々えて多彩
な表現を試みてほしい。(大雲評)



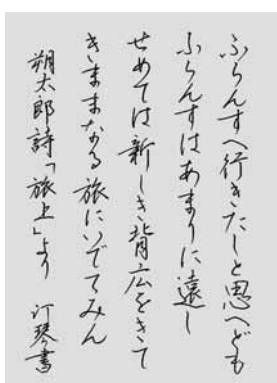
現代詩文書部 特選 斎藤 永舟
穏やかな構成、潤滑のバランス
骨力ある細線で紙面全体を見事に
支えている。
◎現代詩文書部總評 構成等レベ
ルの高い作多数あり。粗雑さが目
立つ作が散見され残念。(無極評)



前衛書部 特選 藤井 花香
鋭く切り込む渴筆線と、凝縮す
る潤筆線の調和が冴え、爽やかで
魅力的な作品となっている。
◎前衛書部總評 多様な作品で頼
もしいが、過剰な表現もあった。
心と技法の探究を願う。(蓮紅評)



漢字部 師範 玉剣 良章
濃墨によるねばりある線質を活
かし、ゆったりと暢達した行書表
現の作。安定感ある運筆に味あり。
◎漢字部總評 上級「釣」に誤字
多し。要注意。下級の楷書表現と
共に点画の構成など字典での検索
を。行書表現は特に。(大雲評)



◎ペン字部總評 概ねよくまとまっ
た作品が多くたが、全体の布置、
行間、落款まで配慮した作を望み
ます。(仙草評)

実用書優秀作品

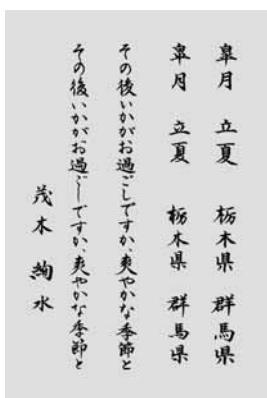
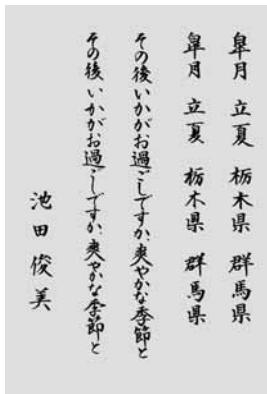
選評 西川翠嵐

◎実用書部総評

500名を越える応募でした。丁寧に書き込まれた作が多く、心が伝わります。
紙面全体への字配り余白を大切にすると良いでしょう。

(翠嵐評)

すっきりした横画、転折からしつかりした縦画が文字を引きしめました。



深生	誠桂千葉	楓竹秀	高宗苑	竹原
大大	和月もく	竹美深	大雲茂	池田
久太	及石飯安藤	深大吉田山	鷺山秋	梅山
下田	川崎田青木	有秋横林	藍石井上	茂木井澤
香良	明桂綱藤連	秀大多胡	高松坂岩	竹井澤
奈子	美雨花孝連	深武山	深坂井上	高井澤
墨洋	祐佑陽朋大瑠筆	有秋源	高水蘭舟	深井江子
高橋	杉山津栗原谷	附中水三千代	蘭舟初郁	白珠光子
栄美	百明恵良り	秀大花千代	蘭舟江子	俊俊連
女子	子惠風子か	大雲八千代	蘭舟江子	高葉久子
<hr/>				
幸椿	香扇翠	八小紅葉	若葉	聲葉
外452名氏名略	(選外)	香街翠	八街若	聲葉
		扇翠	粹仙	聲葉
		椿香	澄春	洞書
		声街翠	春城	書向
		扇翠	東蒼	書堺
		椿香	白露	高真葉翠
		声街翠	白珠	葉堺
		扇翠	利守	利守
		椿香	鶴澤	鶴澤
		声街翠	新村	新村
		扇翠	永井	永井
		椿香	利守	利守
		声街翠	鶴澤	鶴澤
		扇翠	野口久	野口久
		椿香	奈緒美	奈緒美
		声街翠	伯泉	伯泉
		扇翠	亞希	亞希
		椿香	勝見	勝見

前衛書部(特選)

現代詩文書部(特選)



百合子 惠津子 雅雲
貴美子 蕉松初琢 德遊成

選評 太田蓮紅

直・側筆の妙味、爽快作
淡墨美の中に遠近感あり
造形と墨使いに光る物あり
重量感ある筆致、迫力あり
軽妙で心和む魅力的な作

定桂里香
帆泉扇香
藤苑香
千杏子
藤有香
千睦子
藤山香
汀邑香
藤山祥

構え大骨力ある線が魅力
鍛錬された線が魅力の作
骨力ある直線が漲る
骨力ある線が紙面を舞ふ
骨力ある線が紙面を躍る
潤渴細太の妙充実作
筆の動き伸びやかで充実
氣字雄大強韌な細線見事
氣字雄大強韌な線が紙面を躍る

雅子潤渴
秀子潤渴
葵子潤渴
翠子潤渴
龍子潤渴
美子潤渴
悠子潤渴
子潤渴
見事な渴筆線見事な見事
見事な渴筆線見事な見事
見事な渴筆線見事な見事
見事な渴筆線見事な見事
見事な渴筆線見事な見事
見事な渴筆線見事な見事
見事な渴筆線見事な見事
見事な渴筆線見事な見事

選評 佐藤無極

今月の

特別研究部優秀作品(特選)

選評 下谷洋子 種谷萬城 白石和楓 倉林紅瑠

小品の部

漢字(紅瑠)

原島春汀
「薦季直表」

賞直之策尅期成事不差蒙髮先帝
當時實用故山陽太守關内侯季
以封爵授以割郡今直

柿沼彩香書



佐藤陽子書

138×35cm

◆直線と曲線を巧みに使つ
た上下の二部構成。よく
空間をとらえ、紙面明る
く余白も美しい。

(紅瑠評)

かな(奥田)

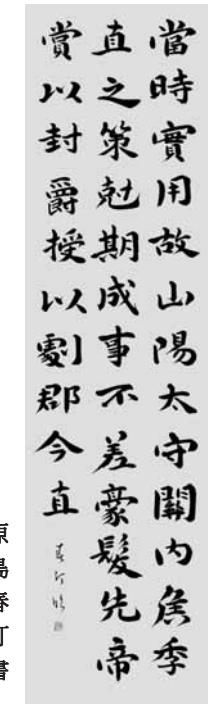
小林溪姫
「わびぬれば」



小林溪姫書

135×35cm

◆やゝ熟れ切れない部分もあるが、上段1・2行目の伸びやかで素直な流れに、今後の期待が膨らむ。(洋子評)



原島春汀書

135×35cm

◆柔かく温かみのある線と横広で安定感のある字形等、古典の特徴を捉えた丁寧で着実な臨書。

(萬城評)

現代詩文書(大雲)

柿沼彩香
「放哉の句」



45×35cm

◆重厚な線が中央を庄
しき魅力溢れる。温
みがあり落款も本文と
見事にマッチした堂々
の作品。(和楓評)

(和楓評)

総出品点数
83点

創作の部<小品の部>

漢字—4点

かな—4点

現代—20点

前衛—9点

現代書の部(46点)

漢字—43点

かな—3点

漢字—43点

大作の部

部分拡大

臨書 (千葉) 平野笛舟 「高野切第一種」



平野笛舟臨

36.5×144.5cm

◆古筆の臨書は形臨が一般的だが、この臨書は形だけでなく、リズムを自分の中とし一際輝いている。
(洋子評)

◆氣字大にして、多彩な線が横に見事に展開。流れも加味され安定感があり、明るく爽やかな作。

(和楓評)

市川紫泉
「石川不二子の歌」

現代詩文書 (八戸)



市川紫泉書

60×180cm

臨書 (千葉) 竹浪叙舟 「薦季直表」



西條松雲書

180×60cm

◆紙面にスケールの大きさと豪快さが張っている。濃墨による潤筆と渴筆を上下に対比させ、意欲的な作となつた。(紅瑠評)

前衛書 (松風) 西條松雲 「涼風」

◆線質、字形の特徴を着実に捉えた臨書作品で完成度が高い。行間、字間の余白も適切。真摯な臨書。(萬城評)

臣蘇言臣自遭遇先帝奉別股心憂自達安之初王師破滅間東時年暮飯貴群膳瓊故ミ軍餉餉朝不及夕先帝神略奇計委任得人深山窮谷民獻木至道路不絕遂使環故喪膽我衆作幕勿月之間廓清鐵取當時實用救山澤太守關內底李孟之策紀制成事不差蒙號光帝嘗以封爵綏以副郡今立歲江旅食許下素為庶吏衣食不充臣愚狀望聖慈錄其情熱於其老田沒得利傳固報勤五力恭而必能收復保養人民臣憂國家恩不敷雷同見事不言千紀靈嚴臣謹皇恐頓首謹言 告身書付御靈嚴臣謹言 本草稿三

竹浪叙舟臨

175×45cm

創作の部 (41点)
漢字 - 5点
かな - 7点
現代 - 9点

前衛 - 20点
臨書の部 (13点)
漢字 - 11点
かな - 2点

54点
総出品点数

〈特選候補者〉
(創作の部)

「漢字」
大雲 奥村 美楓
趙雲 吉田 恵弦
「かな」
水塹 伊澤 香雨
和平 井上 芝雲
「現代詩」
四枝 塚田 美翠
京橋 田中 一葉
大拙 嶋田 美翠
「前衛」
秀恵 阿部 成山
玉州 遠藤 和香
洞書 安藤 楠風
紅瑠 木暮 千晶
「漢字」
紅瑠 栗原 りか
紅瑠 金井みどり
洞書 安藤 楠風
紅瑠 木暮 千晶
(臨書の部)

漢字研究部
(薦季直表)

選評名越蒼竹

今月のホープ作品

充思臣欲

梅澤七生

漢字研究部 特選 梅澤七生

◎漢字研究部總評

では、先ずは歪んだ字形が目につくかもしけませんが、形を似せることよりも大切なことは運筆のリズムの会得です。「三カ所（トン・スー・トン）」のリズムが、まだ固まっていない（スー・トンかトン・スー）のリズムで書かれており、行意や字形の歪みもそこに起因します。ただ、線の曲げすぎは不可です。

正 其 所 在 之 處 也	以 爵 授 太 守	食 不 充 臣 愚 欲 授 以 封 爵	故 山 陽 素 為 廉 封 爵 授 太 守
清 張 良 輔 書	由 香 臨 書	信 代 詔 書	志 善 書
故表曆我衆作春旬月之間席 清蟻張當嘗穿用故山湯木守 閑內矣李直之策起期成事 不差當鼓火帝嘗以封爵授 以割郡今直罷任旅食許下 素為廉食不充臣愚欲	今 直 罷 以 封 爵 授 以 封 爵 先 帝 賞 故 山 陽 李 直 之 今 直 罷 任 旅 食 許 下 素 為 廉	食 不 充 臣 愚 欲 授 以 封 爵 李 直 之 今 直 罷 任 旅 食 許 下 素 為 廉	食 不 充 臣 愚 欲 授 以 封 爵 李 直 之 今 直 罷 任 旅 食 許 下 素 為 廉
美 經 書	生 香 臨 書	信 代 詔 書	志 善 書
故表曆我衆作春旬月之間席 清蟻張當嘗穿用故山湯木守 閑內矣李直之策起期成事 不差當鼓火帝嘗以封爵授 以割郡今直罷任旅食許下 素為廉食不充臣愚欲	先 帝 賞 我 衆 作 氣 旬 月	閑 內 矣 我 衆 作 氣 旬 月	直 罷 任 旅 食 許 太 守
美 經 書	嘉 善 書	武 代 詔 書	張 善 書

天 静 敦 美 叙 正
鈴 溪 子 桜 孝 美

芳華良芝紅清
博洋子香雨風

藍美泰信祥由
水袖香代扇香

桜武美恵良奎
華代梢芳章山

かな研究部
(高野切第一種)

選評 庄司紅邨

今月のホープ作品



奎雅千
恵心泉子

佳桜嘉
恵佳江

和耶朗
子衣

美薰春
和子華

高こ誠森水清姪
井だ和地海月和
秀
楓梅鶴池飯飯安
田原澤田泉島藤千
トト
和虹琴幸洋ミ美
子祥舟子子子悠

玉松
正恵こ京東青竹
佳
渡渡吉山八守村三
木作
青木
芥鄉

有蒼上清了菊こ土素Aう澄青竜こ書
秋陽泉月か月こ氣雪Iる春蓮東だ草
山井原澤津井藤澤本方高田田橋
佳由
花宏洋恒代惠翠瑠芳美幹紅塗雅恵佳
子祥舟子子子陽美博子生雨心泉子恵佳
江朗子衣和子華

特選

も京光春紅く橋彩汀瑠入
大明幸黎や華蘭椿こ高紅澄黎
阪漢局扇明ま仙翠だ真風春明
新東浅上藍井川利澤み
六吉山山山矢安宮松深林根二名永中辻千田高春須杉新代庄島柴椎齊小黒木吉金小岡岡印岩岩入磯飯阿熱
波田本崎口部鷲本尾津澤真有美
藤花な啓白珠子江子白珠子江子

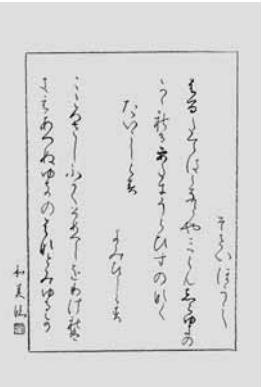
日麗新澤
書土扇高明蘭八声た四玉声
春大泰大竜文一大華秀華立華白蘭小わ秀樹書
泉氣筆箇漢鼎生香か谷川香
汀雲香雲泉筆弦雲仙歌仙精仙扇鼎映か韻原泉

関須鈴鈴杉新清嶋島篠三猿佐佐佐佐佐小高吳熊工草桐木菊菊神川神鑑加葛片鑑鏡小小尾大大大伊市石石石石
藤木木木
惠美秋睦利裕祥三幸称貴美裕董詠綾德淳和澄泰玄豊紫和眞溪壽幸白恵典優美ず順恵照佳後和礼紅か昌竹淳幸チ翠悦津代玲佳
雨心子琳風郎子子子子右子奈子子華香城美蘭香華風子風雅水子恵さ子美德理亮子子霞り子鳳子子子子子子子子子子

芳高竹高た一春声中華黎千幕大Aわ沙有大長椿玉縦墨琇一千たは白水白上一大誉天
外蘭井美崎か弦汀香川申葉張葉雲Iか莉秋阪月翠川縦縁韻弦葉か泉せ露海珠泉草雲田璋
わた高掃蕙千高天有澄玉
かか真雪石葉仙真草秋春川

158渡吉横矢本村富宮三御松松松松堀垣星藤福廣平東原林林早浜浜濱長野根西中中中都樋鶴津田玉竹武田高
名邊田山口柳上野内田園田嶋島重切江野澤田地平山山坂野野田谷岸山西村林野里江九泉淵田村沢井井口橋橋
氏ゆ美満成蒼慧綾節翠翠幸幸栄葵流美だつ知恵洋奈聖ふ永陽久美み葵ゲー一清美亮よ愛雪亞李恵幸香子華江子子苑
名信り蘭登小智達成蒼慧綾節翠翠幸幸栄葵流美だつ知恵洋奈聖ふ永陽久美み葵ゲー一清美亮よ愛雪亞李恵幸香子華江子子苑

七五三木 和美



かな研究部 総評
「高野切第一種」の美しさの一つに字形はもちろん墨継ぎの表現があります。この特徴をよくとらえ、筆先へも細心の注意を込めて情感豊かに筆を運んだ作品です。

かなを学ぶ者にとって一度は手にとり学ぶべき古筆です。種々な手本がある中、原点として接し、潤滑の変化をしっかりと表現することが大事です。その意を汲み素直な作品が多かったです。

かな研究部 成績表

かな研究部

特選 七五三木 和美

正八

こ

大

あ

こ

大

あ

こ

大

あ

こ

大

あ

こ

〔特別昇段級試験臨書課題〕

※臨書課題は全て、写真掲載部分の中から規定の文字数を臨書する。掲載以外は違反となります。

力 莫覩。在智猶迷。況乎佛道崇。虛乘幽控寂。弘濟萬品。典御。大方。舉威靈而無上。抑神力



集字聖教序（行書）

漢字部 第二種 半紙に写真掲載の中から12文字を臨書

於邦黨。若夫秉心。塞淵。砥礪名教伏。



蓋聞二儀有象顯覆
載以含生四時無形
潛寒暑以化物是以
窺天鑒地庸愚皆識
蓋聞二儀有象顯覆
載以含生四時無形
潛寒暑以化物是以
窺天鑒地庸愚皆識

蓋聞二儀有象。顯覆／載以含生。四時無形。／潛寒暑以化物。是以／窺天鑒地。庸愚皆識



顏勤礼碑（楷書）

漢字条幅部

第二種 半切に写真掲載の中から14文字を臨書



孫紘通義尉。沒于蠻。泉／明孝義。有吏道。父開土

二條 さすまひのひづみ
あきしれむまよ

二條 さすまひのひづみ
あきしれむまよ

二條 さすまひのひづみ
あきしれむまよ

二条みなもとのいたるの／あそむのむすめ／ひとつあるすさとをいとひてこしかども／ならのみやこもうきなゝりけり
多曾 須那
だいしらす 春
よみびとしらす 可那
よのなかはいづれかさしてわがならむゆ／きどまるをぞやどゝさだむる
多可那
一多可那
美介利

※ 詞書は書かなくとも可

又ちれちすみたゆとす

ともあうなむと

こくやうとくとくとくとく

かくいのうなむらあきくものう

とく

よもよちせんとくとくとくとく

すくよもよちせん

とく

又者者
は秋はぎのしたば
はまだ
もみぢあへなく
に者
はるがすみ
（かすみ）
ていていにしかりがね
利可年
はいまぞな
者
九那
あきだりのうへ
に耳
よをさむみ
ころも
かりがね
なく
なべには
ぎのしたば
もいろ
づきにけり

※ 図版は原寸

高野切第一種

かな条幅部

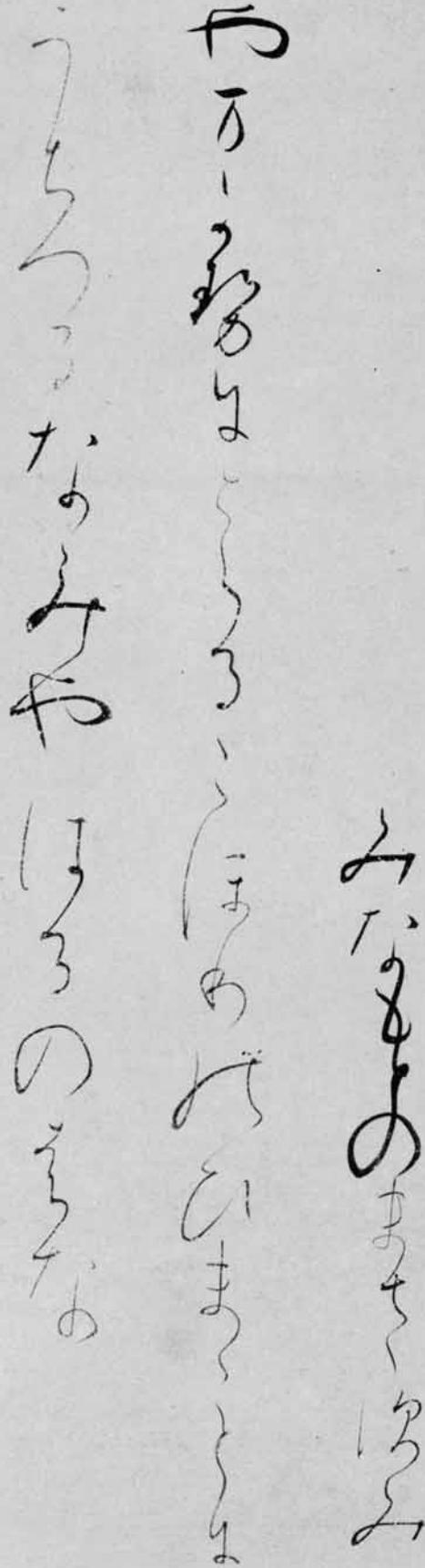
第三種

半切に写真掲載の和歌を書く（料紙可）

※読人は書かなくとも可

みなもとのまさずみ／やまかぜ須
万可勢尔にとくるこほりのひまじ利能とに／うち既い)づるな美みやはるのはな

※図版は原寸



ご注意!!

名前のかき方

- ◎どの部も落款を入れる。
- ・創作は○○書と書く。
- ・臨書は○○臨と書く。
- ◎ただし、かな部・かな条幅部の創作・臨書いずれも印のみも可。

●篆刻

【八月十五日締めきり】

〈出品規定〉審査会員を含む、誰でも出品可。

①摹刻

(ア)課題による語句
(イ)原印自由
(出品の際、原印のコピー添付)

②創作 語句自由



○出品方法

用紙の右側に押印し、左側に印影の記文を明記、並びに落款（氏号）を入れる。

昭和五十年一月二十七日第三種郵便物認可
令和四年六月二十五日印 刷 行
令和四年七月一日發行

(毎月一回一日發行)

書道芸術

第七三五号

73号篆刻優秀作品

選評 後藤大峰

摹刻

<特選>



「坦浦」

創作



「二陰月」

(摹刻)

北遊雲	小中	秀	特選
日	大雲		
成中林	小沢	作 (50音順)	
川			
能喜治	淳華仙		
生たか	大香書	丸山	入選 (50音順)
大雲		A 大雲	
吉原	浜野高橋	加藤須賀澤	新栄筆
		一妙子	大網
永進	申起	昌子	片岡
		美梢	豪峰
(選外なし)			

(創作)

粹宗	生四枝	秀	特選
苑			
藤井	中塚田	作 (50音順)	
茂木	昌		
龍	絢義		
	仙則翠		
声富	眩游秀唯	やま	遊雲
香見耀	水惠一	空映壑	小水
宮野佐	荒阿逢沢	坂本谷	伊赤星
内木々	川部	清麗	文庵
木		覚皓	香雨
成紫	青蘭霞	洋	
	華悠		
(選外なし)			

定価 一部 七五〇円

令和四年六月二十五日印刷
令和四年七月一日發行

発行人 下 谷 洋 子

編集兼
データ処理

印 刷

株式会社 リンクス

小沢写真印刷株式会社

発行所 公益財團法人 書道芸術院

東京都千代田区東神田一丁目七
電話 (03)3862-1954 東神田プラザビル三階
FAX (03)3862-1957 振替 100-150-4135058
ホームページ http://www.linos.jp/shohei/

101-0031

- 印面の大きさは2.3cm(八分角)以内とし朱文、白文自由。
- 印箋は市販のもの、半紙横½の大きさに切ったものも可。
- 創作、摹刻とも応募は一人一点。

7月号 摹刻課題

○篆刻部総評

摹刻、創作ともに真摯な作品が多く見られました。特に原印を細部にまで観察し、よく臨摹している。益々の研究を期待しています。

構成の妙が素晴らしい作品。余白の朱の使い方も好結果に一助。

1か月の購読部数が
1部～9部までの1回の郵送料
送 料

1部	79円
2部	95円
3部	103円
4部	119円
5部	135円
6部	151円
7部	167円
8部	183円
9部	199円
10部以上は	送料免除

コロナ禍の中、当分の間十六時まで時間の変更しております。

電話 (03)3862-1954 FAX (03)3862-1957
※お問い合わせ、ご連絡は、月曜日～金曜日九時～十七時の間にお願いします。(土・日・祝日は休み)

◎郵便物・清書・送金・一般事務等は
東京都千代田区
東神田一丁目七
東神田プラザビル三階
公益財團法人 書道芸術院

101-0031
東神田一丁目七
東神田プラザビル三階
電話 (03)3862-1954 FAX (03)3862-1957
※お問い合わせ、ご連絡は、月曜日～金曜日九時～十七時の間にお願いします。(土・日・祝日は休み)